

夏空 Fragment

ああ 太陽のしるべに 夏空が輝く
何かが待ってる 行かなくちゃ
ああ 夏の足音も 夢心地の地図を
描くキャンバスに 君がいた
「きっと明日は晴れ」 そっと呟く君
ずっと 今を過ごしたい

夏空に咲き散る 群青の花火
流れてく景色 過去への窓に
懐かしい香りも 今はまだ影で
誤魔化す いたずら笑顔

ああ 木陰のベンチに 寄り添った僕らは
何かを待ってる あてもなく
ああ 空っぽラムネに 誰もいない駅で
僕らが遊んだ 夏がある
さっと舞う夏風 そっと僕らを揺らす
もっと 君と過ごせたら

夏の陽が静まり 空に星光る
忘れてた時が 今うごき出す
こじ開けた心は 今未来続く
明日もあの場所へ行こう

切なさが僕たちに 涙を流し始め
君と過ごした時さえも 流れ
それでも僕らがいた あの時あの記憶の
カケラを探し続けてる

夏空に咲き散る 思い出の花火
流れてく景色 過去への窓に
君と僕 駆け出す 風を追い越して
流れてく景色 明日につながる
懐かしい香りも 今はもう消えて
輝く 記憶のカケラ